

2026年度日系社会研修 コース概要

No	25
所管センター	札幌
分野	その他
研修コース名	自然資源管理に向けたGIS、GPS、ドローン等のリモートセンシングの基礎技術
受入人数	4
受入時期	上半期
来日日	2026年7月15日（水）
帰国日	2026年10月10日（土）
提案団体	学校法人 酪農学園
提案団体ウェブサイトアドレス	https://www.rakuno.ac.jp/
研修員必要資格	必要：表計算ソフトの操作など、基本的なコンピュータ操作が可能なこと 望ましい：リモートセンシングソフトの操作については問わないができれば望ましい
研修員に必要な実務経験年数	不問
研修使用言語	英語
日本語能力 （JLPT目安）	不問
英語能力	英語でのコミュニケーション可
研修目標	環境共生の考え方を含め、GIS、GPS、ドローン、衛星リモートセンシング技術等の基礎を習得する。
期待される成果 （習得する技術）	1）GIS活用の基礎知識とArcGISやQGIS等のソフトウェアを用いた分析方法を習得する 2）GPSの基礎知識、農地や森林、環境管理のためのデータ収集システムの構築や活用方法を習得する。 3）ドローン、衛星リモートセンシングの基礎知識とリモートセンシングソフトの操作方法、ドローンデータの処理、緑地抽出手法、収量予測手法などの分析方法の基礎を習得する。
研修計画（内容）	GIS、リモートセンシング（衛星・ドローン）の基礎を、本学の持つGISやリモートセンシングソフトウェア、ドローン、蓄積したデータを用いて学ぶ。GPS、ドローンについては、森林地や農地等での実技とデータ処理等の実習を行う。 本学で行われるJICA課題別研修等にも参加し、技術の向上・多角的な視点の獲得・国際的なネットワークの構築を図る。GIS・リモートセンシング等の最先端技術を知るイベント等に参加する。
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	この研修では、GIS、GPS、ドローン、衛星リモートセンシング技術等の基礎を習得することを目指している。技術研修であるが、題材として環境共生を含め、その考えた方も学ぶ。GIS等の技術は、自然資源の適正管理とともに、スマート農業等、作業の効率化や安全安心な農産物の生産、質の向上等にも資する。このような技術を持つ人材を増やしていくことは、今後の日系社会の発展と持続可能な社会づくりに貢献することである。 酪農学園大学は、2009年に米国のESRI社から、GIS技術の特に優れた機関として、日本の大学としては一校SAG賞を受賞するなど、国内最先端のGIS技術を有している。
応募希望者への特記事項	日本の文化、北海道の文化も、本研修を通して体験してもらえればうれしいです。